

# サムエルの おさない じき



I サムエル 3:19 サムエルは成長した。主は彼とともにおられ、彼のことは一つも地に落とされなかった。

## 1 か

### 1. サムエルは親の祈りの中にいたRemnantでした

- 1) ハンナが祈りの答えを通して生んだ息子です(Iサムエル1:1~11)
- 2) ハンナは答えによって生んだ息子サムエルを神殿にさげるときも祈りました(Iサムエル2:1~10)

### 2. 幼い時期にすでにひとり立ちに成功しました

- 1) サムエルは、契約の箱がある神殿で成長しました(Iサムエル3:1~3)
- 2) 彼は神様の御声を聞きました(Iサムエル3:4~18)
- 3) サムエルが成長したとき、主がいつもともにおられて、彼のことは一つも地に落とされませんでした(Iサムエル3:19)

### 3. サムエルが成長した背景があります

- 1) 家庭には不和がありました(Iサムエル1:1~9)
- 2) 教会では神様のみことばは、まれにしかありませんでした(Iサムエル3:1~2)
- 3) しかし、神様のみことばが聞こえて、タラント、ミッション、天命を発見しました(Iサムエル3:3~18)

タイトル:

せいしよかしよ:

メッセージ:

いのりの かだい(じっせんする こと):

よくできました

★だいいちサムエル1しょう11せつをみてハンナが  
かみさまにささげたいのりをみつけてかいてみましょう



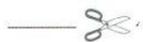
よくできました

★つぎのページをつかってえをかんせいしましょう



はる ところ

うえの ページの えを かんせいするのに つかって ください



# サムエルの しどうしゃの じき

## 2か



Iサムエル 16:1~13 サムエルは油の角を取り、兄弟たちの真ん中で彼に油をそそいだ。主の霊がその日以来、ダビデの上に激しく下った。サムエルは立ち上がってラマへ帰った。(13)

### 1. サムエルはミツパ運動を起こしました(Iサムエル7:1~17)

- 1) Remnant運動です
- 2) R U T C 運動です
- 3) 悔い改めの運動です

### 2. サムエルは霊的な力を持ちました(Iサムエル7:10)

### 3. サムエルは神様が望まれる一番大きな働きをしました

- 1) 神様が備えられた働き人であるダビデに油を注ぎました(Iサムエル16:1~13)
- 2) 聖霊に満たされたダビデが立琴を手にとってひいたとき、サウルについていたわざわいの霊が離れました(Iサムエル16:23)
- 3) サムエルはダビデに契約の箱の奥義を伝えました。  
ダビデは契約の箱のために神殿を準備しました

タイトル:

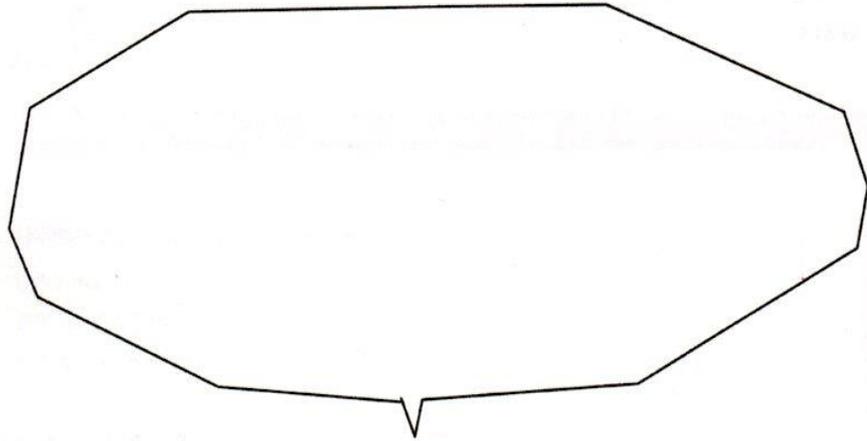
せいしよかしよ:

メッセージ:

いのりの かだい(じっせんする こと):

よくできました

★だいいちサムエル7しょう3せつの みことばを みて  
サムエルが かみさまに どんな いのりを したのか かきましよう



よくできました

サムエルが おこした  
ミツパうんどうに ついて  
ただしい ことを すべて  
えらんでください

1. レムナントうんどうです
2. くらやみを くだく  
うんどうです
3. くいあらため うんどう  
です
4. からだを けんこうに  
する うんどうです

# ダビデの おさない じき

## 3か

✿ **Iサムエル 17:1~47** きょう、主はおまえを私の手に渡される。私はおまえを打つて、おまえの頭を胴体から離し、きょう、ペリシテ人の陣営のしかばねを、空の鳥、地の獣に与える。すべての国は、イスラエルに神がおられることを知るであろう。この全集団も、主が剣や槍を使わずに救うことを知るであろう。この戦いは主の戦いだ。主はおまえたちをわれわれの手に渡される。」

### 1. ダビデは羊飼いの時期を靈的準備の最高の時間にしました

- 1) 正しい心と英知の手で羊飼いの仕事をしました (詩78:70~72)
- 2) 詩篇を記録しました
- 3) 彼が賛美をするときにわざわいの霊が離れるほどでした (Iサムエル16:23)

### 2. ダビデは羊飼いの時期を通して、最高の技能(知識)を備える時間にしました (Iサムエル17:17~18)

- 1) 最高の羊飼いになりました
- 2) 最高の祈りの規律を備えるようになりました
- 3) 最高の賛美を作って歌いました

### 3. ダビデは時代の最も大きな危機を解決しました (Iサムエル17:1~47)

- 1) 国、家庭、教会を生かしました
- 2) 神様の生きておられることと、その方の力をあかししました (伝道)
- 3) 全世界に彼の働きがうわさになって広がりました (宣教)

タイトル:

せいしよかしよ:

メッセージ:

いのりの かだい(じっせんする こと):

よくできました

★だいいちサムエル16しょう13せつをみて ( ) に  
あうことばをいれましょう

サムエルは ( ) を  
とり、きょうだいたちの  
まんなかでかれにあぶらを  
そそいだ。( ) が  
そのひいらい、ダビデのうえに  
はげしくくだった。  
サムエルはたちあがって  
ラマへかえった。  
(1サムエル16:13)



よくできました

★だいいちサムエル17しょう45せつのダビデのこくはくを  
みて ( ) にあうことばをかきましよう

ダビデはペリシテじんにいった。「おまえは、  
つるぎと、やりと、なげやりをもち、  
わたしにむかってくるが、わたしは、  
おまえがなぶったイスラエルのせんじんの  
かみ、ばんぐんの ( ) に  
よって、おまえにたちむかうのだ。  
(1サムエル16:13)



# ダビデの せいじんの じき

✳️ **I サムエル 18:6~8** ダビデがあひのペリシテ人<sup>じん</sup>を打<sup>う</sup>って帰<sup>かえ</sup>って来<sup>き</sup>たとき、みな<sup>みんな</sup>が戻<sup>もど</sup>ったが、女<sup>おんな</sup>たちはイスラエルのすべ<sup>ま</sup>ての町<sup>まち</sup>々<sup>まち</sup>から出<sup>で</sup>て来<sup>き</sup>て、タンバリン、喜<sup>よろこ</sup>びの歌<sup>うた</sup>、三<sup>さん</sup>弦<sup>げん</sup>の琴<sup>こと</sup>をもつて、歌<sup>うた</sup>い、喜<sup>よろこ</sup>び踊<sup>まわ</sup>りなが<sup>ら</sup>、サウル王<sup>おう</sup>を迎<sup>むか</sup>えた。女<sup>おんな</sup>たちは、笑<sup>わら</sup>いなが<sup>ら</sup>、くり返<sup>かえ</sup>してこ<sup>う</sup>歌<sup>うた</sup>った。「サウルは干<sup>せん</sup>を打<sup>うち</sup>、ダビデは万<sup>まん</sup>を打<sup>うち</sup>った。」サウルは、このこ<sup>こと</sup>ばを聞<sup>き</sup>いて、非<sup>ひ</sup>常<sup>じょう</sup>に怒<sup>いか</sup>り、不<sup>ふ</sup>満<sup>まん</sup>に思<sup>おも</sup>って言<sup>い</sup>った。「ダビデには万<sup>まん</sup>を当<sup>あ</sup>て、私<sup>わたし</sup>には干<sup>せん</sup>を当<sup>あ</sup>てた。彼<sup>かれ</sup>にないのは王<sup>おう</sup>位<sup>い</sup>だけだ。」

## 4か

### 1. ダビデは苦難<sup>くなん</sup>を準備<sup>じゆんび</sup>する機<sup>き</sup>会<sup>かい</sup>にしました

- 1) ミカルの助<sup>たす</sup>けによつて刺<sup>し</sup>客<sup>きゃく</sup>から救<sup>すく</sup>い出<sup>だ</sup>されました (I サムエル19:8~17)
- 2) サウルを避<sup>さ</sup>けるためにノブの地<sup>ち</sup>に身<sup>み</sup>を避<sup>さ</sup>けました (I サムエル21:1~9)
- 3) 再<sup>ふた</sup>びガテ地<sup>ち</sup>域<sup>いき</sup>に逃<sup>に</sup>げました (I サムエル21:10~15)
- 4) アドラムのほら穴<sup>あな</sup>に隠<sup>かく</sup>れました (I サムエル22:1~2)
- 5) モアブのミツパに移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>しました (I サムエル22:3~4)
- 6) ユダの地<sup>ち</sup>ハレテの森<sup>い</sup>へ行<sup>い</sup>きました (I サムエル22:5)
- 7) ケイラをペリシテ人<sup>じん</sup>から救<sup>すく</sup>いました。しかしケイラの民<sup>たみ</sup>が裏<sup>うら</sup>切<sup>ぎ</sup>るこ<sup>こと</sup>を知<sup>し</sup>ってか  
らは、また逃<sup>とう</sup>亡<sup>ぼう</sup>者<sup>しや</sup>になりま<sup>し</sup>た (I サムエル23:1~5)
- 8) マオンの荒<sup>あ</sup>野<sup>ら</sup>に移<sup>い</sup>動<sup>どう</sup>しま<sup>し</sup>た (I サムエル23:24~28)
- 9) エン・ゲディの荒<sup>あ</sup>野<sup>ら</sup>でサウル王<sup>おう</sup>と対<sup>たい</sup>面<sup>めん</sup>しま<sup>し</sup>た (I サムエル24:1~22)
- 10) サムエルを葬<sup>ほ</sup>お<sup>お</sup>む、バランの荒<sup>あ</sup>野<sup>ら</sup>に下<sup>くだ</sup>つて行<sup>い</sup>きま<sup>し</sup>た (I サムエル25:1)
- 11) ユダのカルメルでアビガイルに会<sup>あ</sup>いま<sup>し</sup>た (I サムエル25:2~44)
- 12) ジフの荒<sup>あ</sup>野<sup>ら</sup>でまたサウル王<sup>おう</sup>を助<sup>たす</sup>けてあ<sup>げ</sup>ま<sup>し</sup>た (I サムエル26:1~25)
- 13) ペリシテのガテ<sup>おう</sup>の王<sup>おう</sup>、アキシユに逃<sup>に</sup>げま<sup>し</sup>た (I サムエル27:1~12)

### 2. 羊飼<sup>ひつじか</sup>いの時<sup>じ</sup>期<sup>き</sup>に育<sup>そだ</sup>てた霊<sup>れい</sup>的<sup>てき</sup>な力<sup>ちから</sup>が勝<sup>しょうり</sup>利<sup>り</sup>の理<sup>りゆう</sup>由<sup>ゆう</sup>でし<sup>た</sup> (詩78:70~72)

### 3. ダビデが勝<sup>か</sup>つこ<sup>こと</sup>がで<sup>でき</sup>た奥<sup>おく</sup>義<sup>ぎ</sup>があ<sup>あ</sup>りま<sup>し</sup>た

- 1) わざわいの霊<sup>れい</sup>が離<sup>はな</sup>れ去<sup>さ</sup>るほ<sup>ほ</sup>ど神<sup>かみ</sup>様<sup>さま</sup>をほ<sup>ほ</sup>めた<sup>た</sup>えま<sup>し</sup>た (I サムエル16:23)
- 2) サウル王<sup>おう</sup>は霊<sup>れい</sup>媒<sup>ばい</sup>をす<sup>す</sup>る女<sup>おんな</sup>を訪<sup>たず</sup>ねてい<sup>い</sup>くほ<sup>ほ</sup>ど、暗<sup>くら</sup>やみに縛<sup>しば</sup>られていま<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た。  
そのた<sup>た</sup>めに失<sup>しつぱい</sup>敗<sup>ぱい</sup>しま<sup>し</sup>た (I サムエル28:3~14)

タイトル:

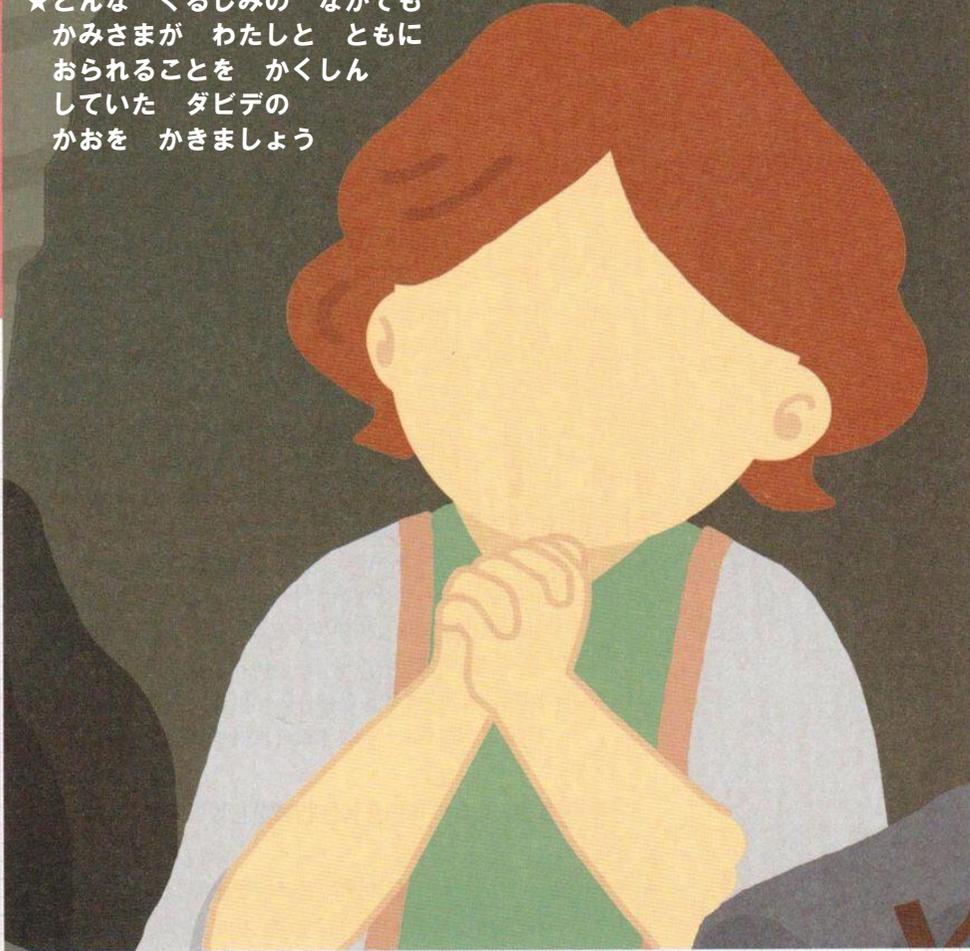
せいしよかしよ:

メッセージ:

いのりの かだい(じっせんする こと):

よくできました

★どんな くるしみの なかでも  
かみさまが わたしと ともに  
おられることを かくしん  
していた ダビデの  
かおを かきましょう



よくできました

★しへん78へん70~72せつの みことばです。  
おおきな こえを だして よんでみましょう

しゅは また、しもベダビデを えらび、ひつじの  
おりから かれを めし、ちちを のませる  
めひつじの ばんから かれを つれてきて、  
みたみやコブと ごじぶんの ものである  
イスラエルを ぼくするように された。  
かれは、ただしい ところで かれらを ぼくし、

♡ えいちの てで かれらを  
みちびいた。

